

4. 朝日地域

森と農

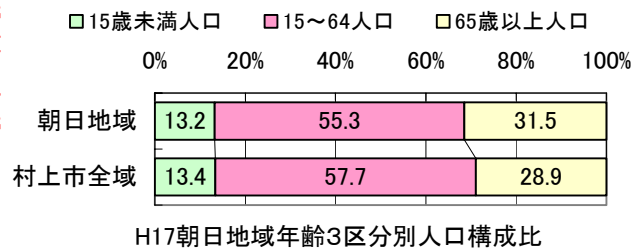
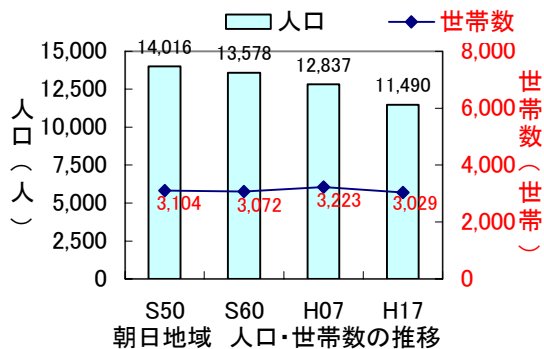


【朝日地域の位置】



【地域の現状】

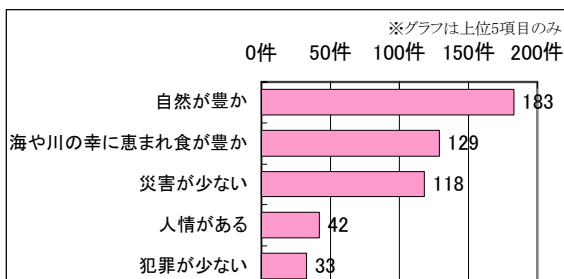
- ・村上市東部、旧朝日村の区域
- ・山林地が約 94%、農地が約 5%、宅地が約 1%
- ・人口は減少傾向、世帯数は ばい状態で推移
- ・65 歳以上高齢者比率は 31.5% で市平均より高い



【アンケート結果】

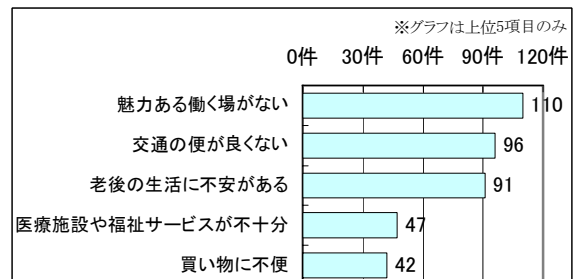
・村上市が住みやすいと感じる理由

4. 朝日地域



・村上市が住みにくいと感じる理由

4. 朝日地域



朝日地域の課題

【地域の魅力の再認識と活性化に向けた活用】

大須戸能・旧宿場町のまちなみなど地域の歴史文化要素の保全と発展的活用
鈴ヶ滝、三面ダム・奥三面ダムなどの景観資源の活用
日東道とIC建設効果を活かした観光の振興と無秩序開発の抑制

【自然環境の保全と人との共存・共生】

三面川・高根川など生活に密着した水辺の環境保全
国立公園など広く分布する自然環境・景観の保全と後世への継承
地域の原風景である美しい農村集落の環境・景観の保全

【安全安心な暮らしの確保】

住民同士のつながりのある集落の形成
公共交通の利便性向上
身近な公園の整備や日常的な買物・医療・福祉など、生活環境の改善

朝日地域の将来目標

「森」と「農」の文化

朝日地域は「森」に代表される自然の恵みと平野部での「農業」により発展してきました。今後ともこれら地域の特徴を大切に保全し、地域づくりに活用していきます。

1 伝統芸能など多様な資源を活かすまち

大須戸能など古くから地域に伝わる伝統芸能や鈴ヶ滝などの自然景観、さらには道の駅「朝日」など近年整備された資源も含めて、改めてその価値を再認識した上でより魅力アップを図るとともに、各資源を効果的につなげて、地域の活性化を目指します。

2 雄大な国立公園に抱かれた豊かな自然と共生するまち

磐梯朝日国立公園に指定される広大な山林地や三面川・高根川などの河川とその流域の農地など、縄文時代から受け継がれている豊富な自然の恵みと循環を今後とも大切に守り続け、豊かな自然的地域を目指します。

3 暮らしやすい農村づくり

地域住民同士の支え合いとチャレンジ精神を大切に伸ばしつつ、併せて生活基盤の改善や地域の移動手段の確保による生活利便性の向上を図り、高齢者も含めて誰もが安心して暮らせる環境の形成を目指します。

朝日地域の整備方針

1 「伝統芸能など多様な資源を活かすまち」の方針

【地域文化を活かした活性化】

県指定文化財の「大須戸能」など地域に伝わる伝統行事やまつり、鳴海金山などの歴史文化的資源を保全するとともに、都市との交流を拡大するための貴重な資源としての有効な活用を目指します。

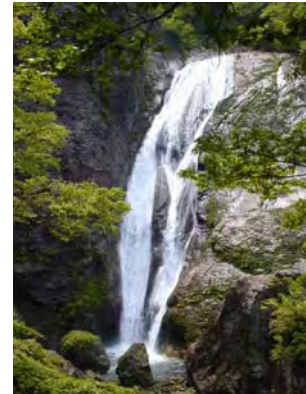
本市と山形県鶴岡市を結ぶ出羽街道沿いにある猿沢・塩野町・蒲萄などの集落は、街道としてのまちなみの保全とさらなる魅力的な景観の創出を図ります。

高根集落で取り組んでいる廃校利用への支援など、住民主体の取り組みの活性化を目指します。

【自然資源を活かした活性化】

三面ダム・奥三面ダム、鈴ヶ滝など、水辺の眺望を活かした観光資源の魅力をより高めるとともに、これらの資源を相互に連携させて、相乗効果により、交流人口の拡大を目指します。

当地域と山形県を結ぶ朝日スーパーライン（県道鶴岡村上線）と市道三面小国線は、朝日連峰などの大自然を満喫できる観光道路として、通行時の安全性向上を目指します。



【高速道路 I C 整備を活かした活性化】

日東道朝日まほろば I C と国道 7 号とのアクセス向上により、近隣の道の駅「朝日」とその周辺との連携を強化し、観光拠点化と交流人口拡大を目指します。

2 箇所の日東道 I C 周辺については、交通利便性の向上により、周辺での開発需要が高まることが予想されるため、周辺環境を悪化させるおそれのある開発は抑制し、自然環境と調和した計画的な土地利用を図ります。



【その他の地域資源の活用】

観光農園での柿やサクランボ栽培、また枝豆収穫の体験など、地域特産の農産物を活用した観光交流による地域の活性化を目指します。

ぶどうスキー場のほか、高根集落～大毎集落間のスノーモービル大会などを活用し、冬季降雪時の交流拡大を目指します。

2 「雄大な国立公園に抱かれた豊かな自然と共生するまち」の方針

【自然環境の保全活用】

地域面積の大半を占める山林地については、土砂災害の防止や水害の防止、水源涵養、CO₂の吸収、朝日らしい景観形成、保健休養などの多面的な公益機能を確保するため、維持保全を図ります。

三面川・高根川などの河川の水質悪化を防ぎ、川原の環境を整備することで、人と河川や水棲生物がふれあえる親水空間の創出を目指します。また、来訪者などのごみ捨てマナーの向上により、山林や河川、湖沼などのきれいな自然環境・景観の保全を図ります。

高根川や三面川沿岸の平野部に広がる農地を保全し、安全でおいしい米や野菜の生産基地として、またうるおいある景観形成地として、その機能維持を図ります。



【自然災害への対応】

地域内の急傾斜地や土砂崩壊危険地区などの危険地区の防災対策を目指します。山間地の集落については、震災時の土砂崩れに伴う孤立化を防止するため、迂回路として、既存の林道や農道の利用を前提としたネットワーク化を目指します。

3 「暮らしやすい農村づくり」の方針

【基幹集落の整備】

市役所朝日支所がある岩沢集落周辺については、行政・郵便・中学校・体育館・文化会館などの公共公益施設に加えて飲食店や事務所などが立地する地域の中心であるため、地域内各地からのアクセス向上と歩道整備など歩行者の安全性確保を目指します。

【道路交通体系の整備】

国道7号交差点などにおいて、村上市街地へ向かう交通が集中して朝夕に渋滞が発生することから、渋滞解消のための改善を目指します。

集落部に住む交通手段を持たない住民が、容易に市街地の都市サービスを楽しむよう、新たな公共交通の仕組みづくりなどを検討し、地域の移動手段の確保を図ります。

冬季の安全な道路環境を確保するため、車道および歩道の除雪体制の確保を目指します。

【集落機能の維持】

既存集落は閑静でゆとりある居住環境の保全を前提としますが、田園居住ニーズに対応した優良な住宅や環境悪化のない生活利便施設の機能整備など、集落人口の減少抑制や生活環境の向上を目指します。

集落内の狭小な生活道路については、緊急車両の通行が可能となるよう整備を目指します。

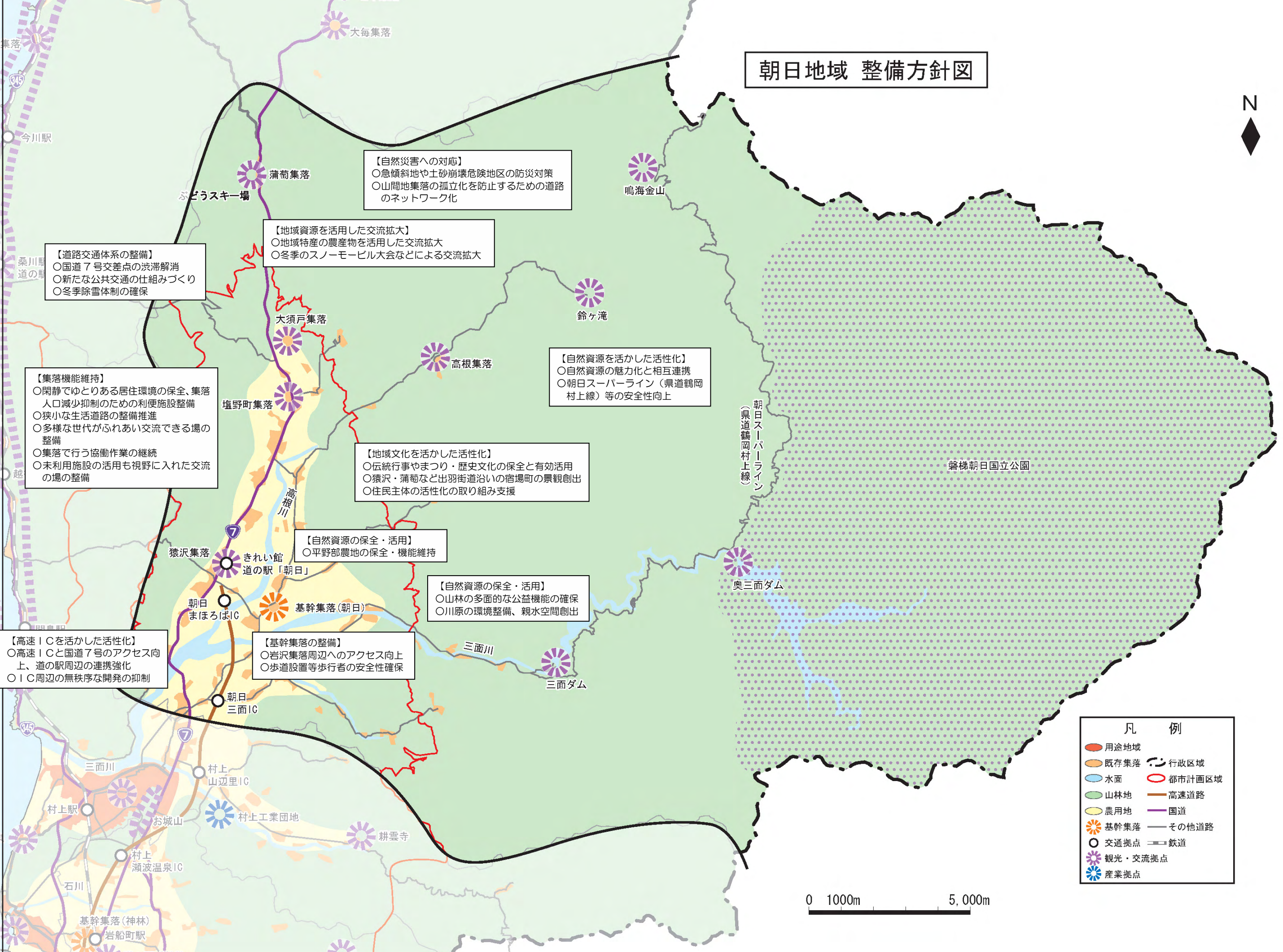
集落で行う協働作業が効率的に継続され、地域環境が維持されるような仕組みづくりを目指します。

集落の公園や集会場など、高齢者や子どもを含めた多様な世代がふれあい交流できる場の整備を目指します。

集落内の空き家・空き施設などを活用して、外部の人たちと地域住民が交流し、また地域産品の提供や技術体験ができる施設の整備を目指します。



朝日地域 整備方針図



【道路交通体系の整備】
 ○国道7号交差点の渋滞解消
 ○新たな公共交通の仕組みづくり
 ○冬季除雪体制の確保

【地域資源を活用した交流拡大】
 ○地域特産の農産物を活用した交流拡大
 ○冬季のスノーモービル大会などによる交流拡大

【自然災害への対応】
 ○急傾斜地や土砂崩壊危険地区の防災対策
 ○山間地集落の孤立化を防止するための道路のネットワーク化

【集落機能維持】
 ○閑静でゆとりある居住環境の保全、集落人口減少抑制のための便利施設整備
 ○狭小な生活道路の整備推進
 ○多様な世代がふれあい交流できる場の整備
 ○集落で行う協働作業の継続
 ○未利用施設の活用も視野に入れた交流の場の整備

【自然資源を活かした活性化】
 ○自然資源の魅力化と相互連携
 ○朝日スーパーライン（県道鶴岡村上線）等の安全性向上

【地域文化を活かした活性化】
 ○伝統行事やまつり・歴史文化の保全と有効活用
 ○猿沢・葡萄など出羽街道沿いの宿場町の景観創出
 ○住民主体の活性化の取り組み支援

【自然資源の保全・活用】
 ○平野部農地の保全・機能維持

【自然資源の保全・活用】
 ○山林の多面的な公益機能の確保
 ○川原の環境整備、親水空間創出

【高速ICを活かした活性化】
 ○高速ICと国道7号のアクセス向上、道の駅周辺の連携強化
 ○IC周辺の無秩序な開発の抑制

【基幹集落の整備】
 ○岩沢集落周辺へのアクセス向上
 ○歩道設置等歩行者の安全性確保

凡 例	
用途地域	行政区域
既存集落	都市計画区域
水面	高速道路
山林地	国道
農用地	その他道路
基幹集落	鉄道
交通拠点	観光・交流拠点
観光・交流拠点	産業拠点

